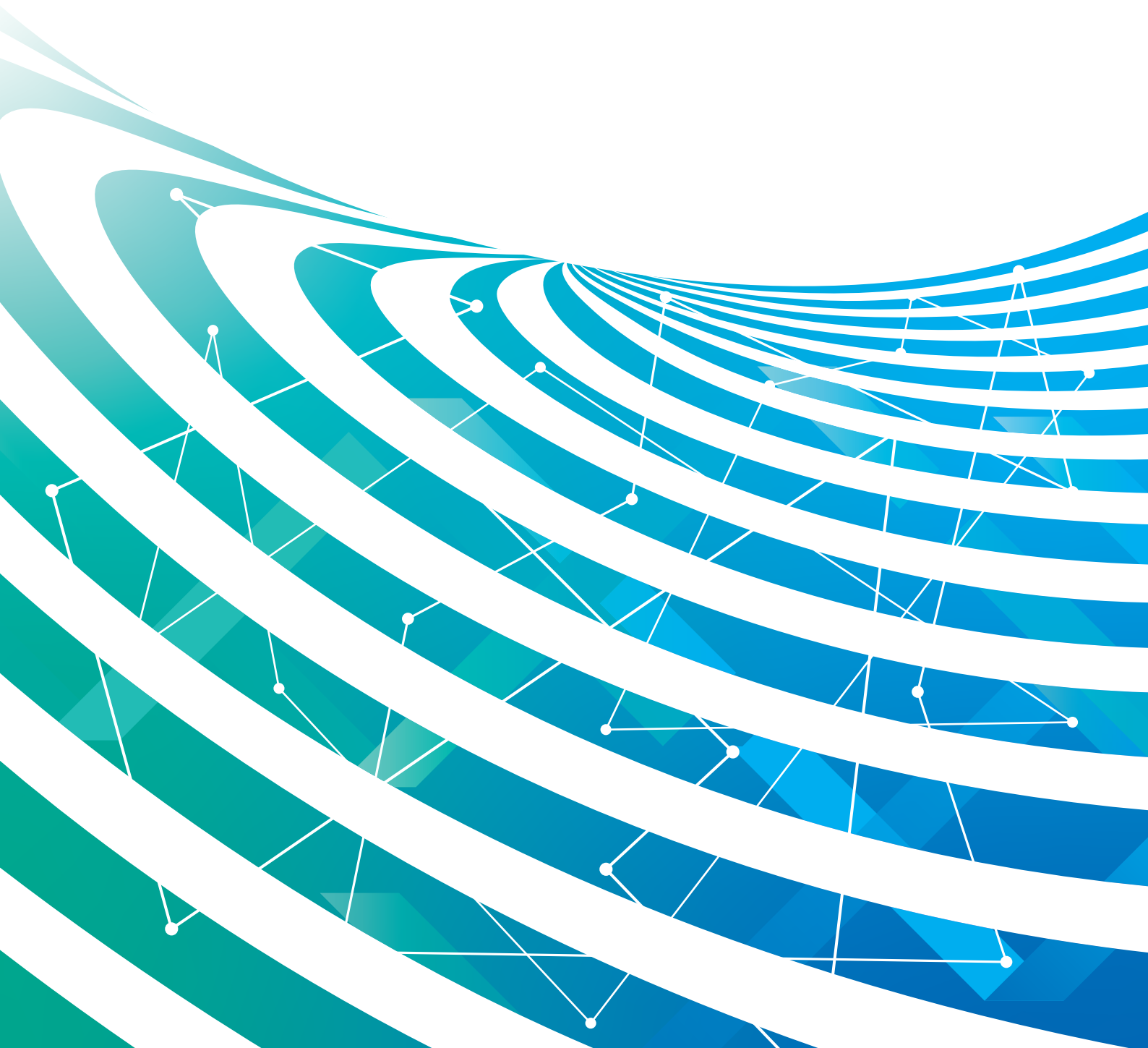
碧海信用金庫

Disclosure 2026

半期ディスクロージャー

2026年4月1日～2026年9月30日

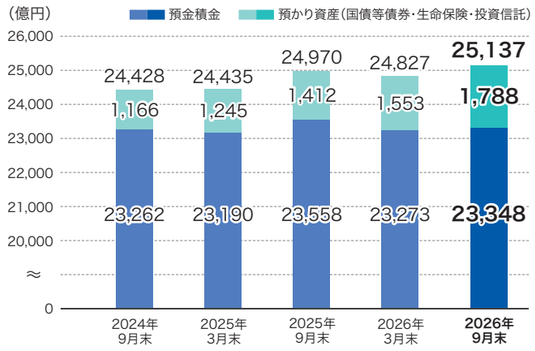


当金庫の2026年度上半期の業況をお知らせいたします。

Disclosure 2026

預金積金 預かり資産

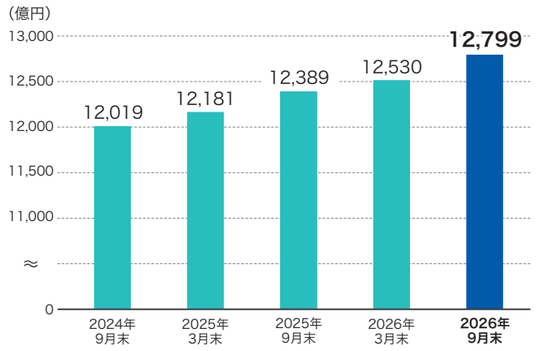
預金積金残高は、前期末比75億円増加の2兆3,348億円となりました。預かり資産を合わせた金融資産残高は、前期末比310億円増加の2兆5,137億円となり、お客さまからお預かりしている金融資産は着実に増加しています。



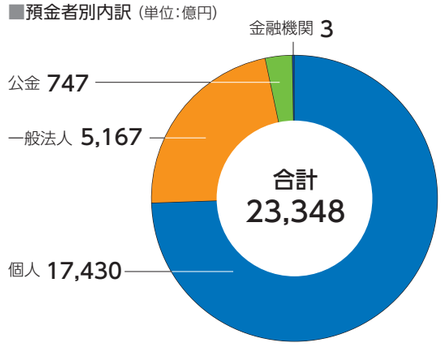
貸出金

貸出金残高は、個人向け・事業者向け貸出ともに増加し、前期末比269億円増加の1兆2,799億円となりました。

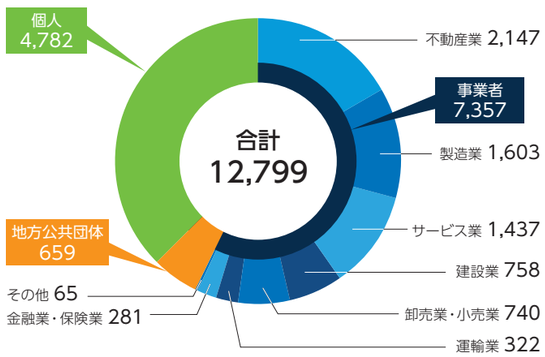
地域のさまざまな業種の皆さまの資金需要に積極的にお応えしています。



■預金者別内訳 (単位:億円)



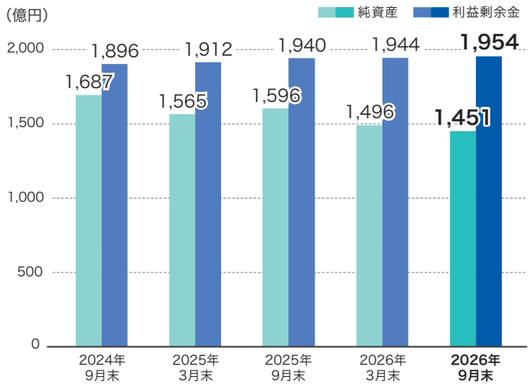
■業種別貸出金残高 (単位:億円)



純資産

市場金利等の上昇によりその他有価証券評価差額金の控除額が前期末比56億円増加したため、純資産は前期末比44億円減少の1,451億円となりました。

過去からの利益の蓄積である利益剰余金は、前期末比9億円増加の1,954億円と、着実に増加しています。



有価証券の時価情報

有価証券の評価損は、国内金利の上昇により前期末比77億円拡大し717億円となりましたが、計画的な損切りにより抑制を図っており、内部留保により蓄積された利益剰余金(1,954億円)で吸収できる水準に収まっています。

また、保有する債券は、満期時に額面で償還されるものが主体です。

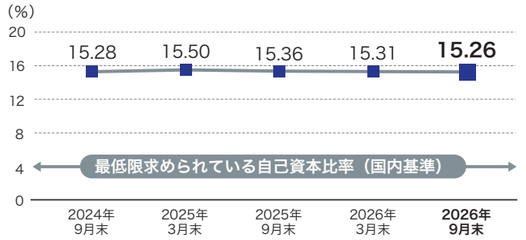
(単位:億円)

種　類	2026年3月末		2026年9月末	
	時価	評価差額	時価	評価差額
その他有価証券	6,636	△639	6,160	△717
株　式	128	56	78	55
債　券	3,967	△556	3,651	△613
その他	2,541	△140	2,429	△159
売買目的有価証券	−	−	0	−
満期保有目的の債券	−	−	−	−

1. 時価は、期末日における市場価格等に基づいています。
2. 評価差額は、期末日の帳簿価格と時価の差額です。
3. 「その他」は投資信託・外国証券等です。
4. 本表には市場価格のない株式等及び組合出資金は含めていません。
5. 売買目的有価証券については、個人向け国債1百万円を一時的に保有しています。

自己資本比率

金融機関の安全性を表す代表的な指標である自己資本比率は、利益計上による自己資本の増加はありましたが、貸出金の増加などの要因により前期末比0.05ポイント低下の15.26%となりました。毎期の利益剰余金の積み上げや資産良化への取り組みにより、信用金庫に求められる国内基準4%を大幅に上回っています。



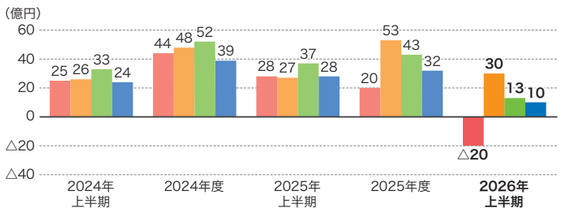
(参考)自己資本比率＝自己資本額÷リスクアセット

損益の状況

預金利息や人件費が増加した一方で、貸出金利息や市場運用での利息配当金が増加したことにより、本業の利益での収益力を示す指標であるコア業務純益(投資信託解約損益を除く)は、前年同期比3億円増加の30億円となりました。

また、有価証券の損切りの実施等により、業務純益は前年同期比49億円減少の△20億円、経常利益は前年同期比24億円減少の13億円、当期純利益は前年同期比18億円減少の10億円となりました。

最終利益である当期純利益の大部分が利益剰余金として積み立てられ、当金庫の自己資本の充実につながっています。

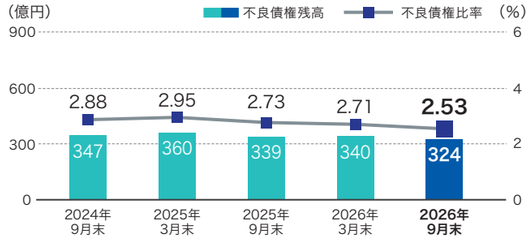


業務純益　：融資など基本的業務に係る利益です。
コア業務純益(投資信託解約損益を除く)
　：業務純益から、一時的な変動要因(一般貸倒引当金繰入額、国債等債券関係損益および投資信託解約損益)を除いたものです。
経常利益　：通常の営業活動からの利益です。経常的な収益力を見る上で重要な利益です。
当期純利益：経常利益に特別利益と特別損失を加減し、法人税などを控除した利益です。最終利益ともいいます。

不良債権の状況

事業再生・経営サポート活動に努めた結果、金融再生法ベースの不良債権残高は前期末比16億円減少の324億円、不良債権比率は前期末比0.18ポイント低下の2.53%となりました。

不良債権の89.9%が担保や保証、貸倒引当金でカバーされています。



※不良債権比率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

(単位:百万円)

	2025年度上半期	2026年度上半期	増減
業務粗利益	11,164	6,548	△4,615
資金利益	10,032	11,169	1,137
役務取引等利益	525	679	154
その他業務利益	606	△5,300	△5,907
国債等債券関係損益	255	△5,413	△5,669
経費	8,295	8,621	326
人件費	5,395	5,605	210
物件費	2,526	2,623	97
一般貸倒引当金繰入額	−	−	−
業務純益	2,869	△2,073	△4,942
臨時損益	914	3,423	2,509
不良債権処理損益	△99	△162	△62
株式等関係損益	758	3,478	2,719
経常利益	3,780	1,343	△2,437
特別損益	△1	△45	△43
当期純利益	2,823	1,015	△1,807
実質業務純益	2,869	△2,073	△4,942
コア業務純益	2,613	3,340	726
コア業務純益(投資信託解約損益を除く)	2,719	3,034	315

当金庫の概要(2026年9月末現在)

創業	昭和25年10月25日
総資産	2兆5,244億円
預金	2兆3,348億円
貸出金	1兆2,799億円
出資金	11億68百万円
自己資本比率	15.26%(単体)
店舗数	78店舗(うち出張所1カ所、インターネット支店1店舗)
駐在員事務所	1カ所(バンコク)
店舗外ATMコーナー	55カ所(共同ATMコーナー含む)
役職員数	1,282人
本店所在地	安城市御幸本町15番1号

基本方針

中小企業並びに国民大衆の地域金融機関として地域経済振興のため貢献する。

JCR格付

A+
2026年3月取得

へきしんは、㈱日本格付研究所(JCR)より、長期発行体格付として、21年連続で「A+」の評価を得ています。

※へきしんの「格付事由」については、JCRホームページ(https://www.jcr.co.jp)をご覧ください。

■本資料に掲載している計数は、特に表示のない限り、原則として単位未満を切り捨てて表示しています。
■本資料に掲載している計数については、会計監査人の監査を受けていません。

トピックス（2026年4月1日～9月30日）

愛知県「子どもが輝く未来基金」への寄付

定期積金「ｙｅｌｌ（エール）」の総満期契約額の一定率に相当する金額を愛知県「子どもが輝く未来基金」に寄付し、7月6日に感謝状を授与されました。

今後も商品を通じた社会貢献に積極的に取り組んでまいります。



地域のスポーツ振興への協力

地域のスポーツ振興に向けた取り組みとして、当金庫はシーホース三河を応援しています。へきしんアプリやLINEのリッチメニューの地域クーポンから割引観戦チケットを購入いただけます。

また、9月14日からは「へきしんシーホース三河応援定期預金2026」の取り扱いを開始しました。



金融教育、職場体験等の実施

当金庫では学校等に出向いて金融教育やキャリア教育、SDGs等に関する出張授業を実施しています。

また、職場体験や職場訪問の受け入れ等も行っています。地域の子どもたちへの教育支援を通して地域の発展に貢献してまいります。



愛知県立安城高等学校にて

すまいるプロデュース!「愛知グルメフェア」高島屋バイヤーとの商談会実施

6月25日および26日に、株式会社高島屋が宅配カタログで開催する「愛知グルメフェア」に向けて、高島屋のバイヤーを招いた商談会を開催しました。

食品製造や飲食店運営のお客さま31社にご参加いただきました。





自動車業界価格転嫁シンポジウムの開催



自動車関連事業者さまに向けて、関係機関と共催で価格転嫁・価格適正化に関するシンポジウムを9月25日に開催しました。今後も地域の事業者さまの経営課題解決に向けた支援を継続してまいります。



特殊詐欺等被害防止への取り組み

特殊詐欺等の未然防止に積極的に取り組んだ結果、地域の警察署より多くの感謝状をいただきました。また9月4日には当金庫職員が一日警察官を委嘱され、碧南警察署と連携した特殊詐欺防止にかかる防犯イベントを実施しました。

お客さまの大切な預金をお守りするため、積極的に被害防止に取り組んでまいります。



安城警察署での署長感謝状贈呈式（今村支店）

碧海信用金庫
愛知県安城市御幸本町15番1号
https://www.hekishin.jp/

「資料編」のご案内

財務状況等のより詳細な情報については、「資料編」を作成しています。
「資料編」は当金庫ホームページに掲載しています。
https://www.hekishin.jp/about/disclosure/shihanki.php

2026年11月発行